

ピロリ除菌における呼気テストで偽陰性を生じる可能性のある薬剤

ピロリ菌のウレアーゼ活性に影響を与える薬剤を服用していると、ピロリ菌が残っているにも関わらず除菌されてしまったような判定が出る可能性がある(偽陰性)。

●偽陰性を生じる可能性のある薬剤

- ① プロトンポンプ阻害剤(P P I)
ランソラール、タケプロン、オメプラール
- ② 抗生物質全般
- ③ 胃粘膜保護剤
アルサルミン、ガストローム
- ④ ビスマス製剤
次硝酸ビスマス

以上の薬剤服用中または服用中止直後では偽陰性になる可能性があるため注意すること。
上記薬剤服用中止後4週以降の時点で呼気テストを実施するように。

●偽陰性を生じない胃粘膜薬剤

ムコスタ、セルベックス、アルロイドG

●偽陰性を生じるかどうか不明だが、生じたという報告はない胃粘膜保護剤

マーズレン、ケルナック、その他の胃粘膜保護剤等

*除菌後に頻用されるチザノン等のH₂ブロッカーに関しては、データはないが、偽陰性を生じることがないとも言えないとのメーカーの回答。その他の胃粘膜保護剤に関しても上記三種以外、調査されていないため明確な回答は得られませんでした。